

家庭礼拝ガイド 365日－10月

日付	聖書箇所	中心聖句	テーマ
10/1	ルカ 16:19～31	ルカ 16:31	金持ちとラザロのたとえ
10/2	ヨハネ 11:1～46	ヨハネ 11:25	ラザロの復活
10/3	ルカ 17:11～19	ルカ 17:17, 18	戻って来た一人
10/4	マタイ 19:13～15	マタイ 19:14	子どもたちを祝福するイエスさま
10/5	ルカ 18:15～17	ルカ 18:17	子どものように
10/6	マルコ 10:42～45	マルコ 10:45	仕えるために来たのです
10/7	ルカ 18:35～43	ルカ 18:41	わたしに何をしてほしいのか
10/8	ルカ 19:1～10	ルカ 19:10	ザアカイ
10/9	ルカ 19:11～27	ルカ 19:17	ミナのたとえ
10/10	マタイ 21:1～11	マタイ 21:3	エルサレム入城
10/11	マタイ 21:12～17	マタイ 21:13	宮きよめ
10/12	ルカ 20:19～26	ルカ 20:25	神のものは神に
10/13	マルコ 12:41～44	マルコ 12:44	レプタをささげた女の人
10/14	マタイ 24:35	マタイ 24:35	天地は滅び去ります
10/15	マタイ 25:1～13	マタイ 25:13	賢い娘たちのたとえ
10/16	マタイ 25:31～46	マタイ 25:40	最も小さい者のひとりにしたのは
10/17	マルコ 14:3～9	マルコ 14:8	ナルドの香油
10/18	ヨハネ 13:1～17	ヨハネ 13:14	弟子の足を洗うイエスさま
10/19	マタイ 26:26～29	マタイ 26:28	最後の晩餐
10/20	ヨハネ 14:6	ヨハネ 14:6	イエスさまが道、真理、いのち
10/21	ヨハネ 14:16	ヨハネ 14:16	もうひとりの助け主
10/22	ヨハネ 14:27	ヨハネ 14:27	イエスさまがくださる平安
10/23	ヨハネ 15:1～11	ヨハネ 15:5	わたしはまことのぶどうの木
10/24	ヨハネ 15:16	ヨハネ 15:16	神さまの選び
10/25	ヨハネ 16:33	ヨハネ 16:33	世に勝利されたイエスさま
10/26	マタイ 26:36～46	マタイ 26:39	ゲッセマネの祈り
10/27	マルコ 14:38	マルコ 14:38	肉体は弱いのです
10/28	ルカ 22:54～62	ルカ 22:61	三度知らないと言ったペテロ
10/29	ルカ 23:13～25	ルカ 23:14	イエスさまの裁判
10/30	ルカ 23:34	ルカ 23:34	父よ彼らをお赦してください
10/31	ルカ 23:32～43	ルカ 23:43	わたしと共にパラダイスにいる

10月1日

テーマ：金持ちとラザロのたとえ

聖書箇所：ルカの福音書16章19節～31節

◆今日のみことば

アブラハムは彼に言った。『もしモーセと預言者との教えに耳を傾けないのなら、たといだれかが死人の中から生き返っても、彼らは聞き入れはしない。』
ルカの福音書16章31節

◆メッセージ

いのちは大切です。でも、どんなに大切にしている、いつかはみんな死んでしまいます。お金も大切です。でも、死んでしまったらなんの役にも立ちません。そのことについて、イエスさまはこんなたとえ話をしてくださいました。

ある金持ちが、毎日ぜいたくに遊びに暮らしていました。好きなもの食べ放題。その金持ちの家の玄関にはラザロさんという貧しい人がいました。ラザロさんはおなかペコペコで『金持ちの食べ残しでもいいから欲しいな～』と思っていました。しかし金持ちは自分のお家の前にいるラザロさんを知らず。自分のことしか、考えていませんでした。神さまは、周りの人に心に向けて分かち合うようと命じておられるのに。やがて、二人は死にます。ラザロさんはアブラハムさんのいる天国に行きました。いっぽう金持ちは、「ハデス」で苦しむことになりました。



お金持ちは、ラザロさんと一緒にいるアブラハムさんに頼みました。「助けてくれ。そこにいるラザロに水を持ってこさせてくれ！」しかし、アブラハムさんはこう言いました。「あなたのいる所と、ここは、行ったり来たりすることはできません。」死の後は、天国とハデスにはっきりと分かれることがわかります。苦しむ金持ちは、自分の家族にはこんなところに来てほしくないと思いました。「じゃあ、そこにいるラザロを、私の家につかわして、私の兄弟たちがこんなに苦しいところに来ないように言いかせてください。」でも、答えはこうでした。「彼らにはモーセと預言者(聖書)があります。この教えを聞いて従わないなら、死んだ人が説得しにいても、聞き入れることはしません。」。これは、「聖書のことばを聞いても信じない人は、もし仮に天国や地獄から戻って来た人の体験談を聞かされても、悔い改めることはない。」ということです。信仰は聖書のことばからくるのであって、奇跡(なにか特別な体験)からくるのではないからです。そして、信じるということは、みことばに聞き従うことだということです。やがて必ず死ぬことを考えて、みことばに聞いて従う歩みができるようにお祈りしていきましょう。



◆お祈り

「神さまのことば(聖書のことば)を、たいせつにして、いきっていくことができますように。」

(静岡めぐみ教会伝道師 杉山義也)

10月2日

テーマ：ラザロの復活

聖書箇所：ヨハネの福音書11章1～46節

◆今日のみことば

イエスは言われた。わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。

ヨハネの福音書11章25節

◆メッセージ

ベタニヤという村にマルタさんとマリヤさん、そしてその兄弟ラザロさんがいました。ある日、ラザロさんはひどい病気にかかり、死にそうになりました。このことを聞いたイエスさまは、すぐにはベタニヤに行きませんでした。なぜでしょうか。「この病気は死で終わるだけのものではなく、神の栄光のためのものです・・・」(4節) イエスさまを信じる人には神さまが永遠のいのちを与えてくださり、死は恐れるものではないことをみんなに伝えるためでした。

イエスさまがベタニヤに着いた時、マルタは「主よ。もしここにいてくださったなら、私の兄弟は死ななかつたでしょうに・・・」(21節) と悲しましました。人は死ぬとどうなるのでしょうか。体がどんどん冷たくなって、動かず、話をする事もできません。死んだ人はお墓に入られます。マルタさんとマリヤさんは、悲しみに泣き続けていました。もう、ラザロさんに会うことができない・・・悲しい気持ち、さみしい気持ちでいっぱいです。ラザロさんを取り返すことができない、とてもつらい気持ち。愛する家族やお友だちが亡くなったら、こんな気持ちで胸がはりさけそうになります。人が死ぬ、というとは、一番つらいことです。



イエスさまは「わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです」(25節) と言いました。死んで4日もたっていたラザロさんのお墓に行って、「ラザロよ。出て来なさい」とイエスさまが大声で叫ぶと、なんと！お墓からラザロさんが出てきました！神さまが人を生き返らせる方のある方であることを示すためでした。

イエスさまは私たちの罪のために十字架の上で死んだ後、よみがえりました。そのことで私たちに永遠のいのちが与えられることを教えてくださいました。イエスさまを信じる人は誰でも救われて永遠のいのちをもらって天国でずっと生きることができます。だれでもイエスさまを信じればまた天国で会うことができます。イエスさまを知らないお友だちや家族、周りの人たちにイエスさまを信じるように伝えましょう。

◆お祈り

お友だち、家族、みんなと天国でまた会いたいです。イエスさまを信じるように伝えられるように助けてください。

(清水聖書教会牧師 韓在國)

10月3日 テーマ：戻って来た一人

聖書箇所：ルカの福音書17章11節～19節

◆今日のみことば

そこでイエスは言われた。「十人きよめられたのではないか。九人はどこにいるのか。神をあがめるために戻って来た者は、この外国人のほかには、だれもいないのか。」

ルカの福音書17章17、18節

◆メッセージ

ひふ病はとてもつらい病気です。ひふが荒れたり、かゆくなったり、痛くなったり・・・。酷くなると人に見られるのがとても辛くなって外にも出られず、大好きな友だちにも会えず、一人でどんどん寂しくなっていく孤独な病気です。

イエスさまの時代にもとても重いひふ病の人たちがいました。今日の聖書のお話は、この重いひふ病の十人の人たちのお話です。彼らのかかったひふ病は人にうつるので家族と一緒に住むこともできず、彼らは一緒に住んでいました。

ある日、彼らのいる町にイエスさまがやって来られました。十人の人はイエスさまのうわさを聞いていたので、治してもらおうと思い、イエスさまのところへかけつけ、遠く離れたところで彼らは大きな声で言いました。「イエスさま！！私たちに助けください」。イエスさまは、おっしゃいました。「行って、自分の体を祭司に見せなさい。」祭司というのは、神さまのお仕事をしている人で、病気が治ったかどうか見てくれる人です。「大丈夫かな。まだ治っていないのを人に見られたら、石を投げられるかもしれない。」「でも、イエスさまがおっしゃったとおりにしてみようよ。」十人は怖かったけれども、勇気を出して歩いていきました。すると、不思議なことが起こりました。あれほど、重かったひふ病がきれいに治ったではありませんか。「わあ、すごい！」「これで家族と暮らせる！」みんな大喜びです。九人は祭司のところに行きました。



あとの一人は、大きな声で、「神さま、感謝します！」と言いながら、イエスさまのところに戻ってきました。彼はイエスさまの足元にひざまずいて、心から「あり

がとうございます。」とお伝えしました。イエスさまは、そのことを、神さまをあがめるために戻ってきたと、とても褒めてくださいました。「これは神さまがしてくださいました。」と認めること、感謝することを神さまは喜んでくださいます。お願いのお祈りだけでなく、感謝のお祈りをして神さまをあがめましょう。



◆お祈り

「私を助けて、守ってくださる神さまに心から感謝することができるように。」

10月4日

テーマ：子どもたちを祝福するイエスさま

聖書箇所：マタイの福音書19章13～15節

◆今日のみことば

しかし、イエスは言われた。「子どもたちを許してやりなさい。邪魔をしないでわたしのところに来させなさい。天の御国はこのような者たちの国なのです。」
マタイの福音書19章14節

◆メッセージ

みなさんは「礼拝」と聞くとどのようなイメージを持ちますか？大人が出るところ、むずかしい聖書のお話がされる場所…確かに礼拝に出る人は大人の人が多いですし、聖書のお話がむずかしくて自分にはまだ早いのではと思う時もあるかもしれません。でも、礼拝で一番大切なことは自分が大人だとか子どもだとか、どれだけ聖書の知識があるとかないとかいうことではありません。

マタイの福音書19章で、イエスさまが人々と話しているところに、イエスさまに祈ってもらおうとやってきた子どもたちを「いま話の途中なんだ！邪魔だ！」とでも思ったのでしょうか、子どもたちを連れてきた人々を弟子たちが叱る場面があります。

でもイエスさまは「邪魔をしないでわたしのところに来させなさい。天の御国はこのような者たちの国なのです。」とおっしゃいました。イエスさまは大人だとか子どもだとか、お話がわかるとかわからないとかで人を差別されるようなお方ではありません。すべての人を招いておられるのです。そしてイエスさまが招いておられるのは、教会での礼拝、おうちでの礼拝などの区別なくどのような礼拝にも同じように招いてくださっています。そして、イエスさまのもとに行きたいと願うことを喜んで祝福して下さいます。



礼拝に来るお友だちが少ない時もあるかもしれません。聖書のお話が少しむずかしい時もあるかもしれません。でもイエスさまはみんなを礼拝に招いてくださっているのです。そのように私たちに招待して下さったイエスさまとお会いする場所が礼拝です。とくにイエスさまは「天の御国はこのような者たちの国なのです。」とあるように、子どもたちを招いておられます。イエスさまのお招きに感謝して、喜んで礼拝をささげていきましょう。イエスさまからの祝福をうけましょう。

◆お祈り

今日も礼拝に私たちを招いて祝福して下さっていることを感謝します。これからもイエスさまのお招きに応えることができますように。

(五十嵐キリスト教会牧師 山岸直生)

10月5日

テーマ：子どものように

聖書箇所：ルカの福音書18章15～17節

◆今日のみことば

まことに、あなたがたに告げます。子どものように神の国を受け入れる者でなければ、決してそこに、入ることはできません。ルカの福音書18章17節

◆メッセージ

今日の箇所は、イエスさまにさわっていただくとしてお父さん、お母さんに連れられて来られた幼子たち(小さな人たち)を、お弟子さんたちが見て叱ったところです。しかし、イエスさまは幼子たちを呼び寄せて「子どもたちをわたしのところに来させなさい。止めたいはいけません。神の国は、このような者たちのものです。」とおっしゃってくださいました。「神の国は、このような者たちのもの」ってどういうことでしょうか？



お母さんにだっこされた赤ちゃんも、イエスさまのところに連れて来られたでしょう。赤ちゃんは、お母さんのおっぱいから出るお乳をそのままごくごく飲みます。「きょうのお乳は、あーだ、こーだ」とケチをつけて、お乳をはき出す赤ちゃんはいません。赤ちゃんはすなおにお乳を飲みます。そんな、すなおにお乳を飲む赤ちゃんのように、神の国をすなおに受け入れる人でなければ、決してそこに入れませんと、イエスさまはおっしゃいました。

みなさんはどうですか？人はだんだん大きくなると、自分でいろいろ考えるようになります。いろいろ自分で考えて、納得できないときには、すなおになれないことがあります。自分で考えることはとても大事なことです。そして自分で考えて、納得するまではすなおに受け入れたくない、と思うこともあるでしょう。たしかに、この社会で生きるには、そのように「自分で納得するまでは受け入れない」とするほうがよい場合もあります。



けれども、神さまがおさめる「神の国」は、自分で考えてわかったり、自分の都合のよいものだけを与えてくれる国でもありません。まずは、神さまがおさめる「神の国」をそのまま受け入れることが大切です。お母さんに抱っこされて、すなおにお乳を飲む赤ちゃんのように、神の国を受け入れる人になりたいですね。

◆お祈り

神さまがおさめる神の国にわたしも入れますように。すなおに信じられるようにしてください。

(伊那聖書教会牧師 大杉 至)

10月6日

テーマ：仕えるために来たのです

聖書箇所：マルコの福音書10章42節～45節

◆今日のみことば

人の子が来たのも、仕えられるためではなく、かえって仕えるためであり、また、多くの人のための、贖いの代価として、自分のいのちを与えるためなのです。

マルコの福音書10：45節

◆メッセージ

イエスさまが十字架を目指して歩いておられたときに、弟子たちのなかにも「もしも、イエスさまが栄光を受けたときには、僕を、わたしを右と左の席に座らせてください」と、ぬげがけして願い出た人がいました。だれもが一番になろうと競い合います。

イエスさまは、心を痛めて言われました。「この世の国では、王様が力づくで人々を支配します。」また、お金で会社や町を大きくしようとします。人に命令をしたり、大きな態度をとったり強いことが偉いことのように思っています。「しかし、神さまの国ではそうではありません。神さまの国の働き人は、みなのもべになって、自分と同じように他の人を大切にします。」と、教えられました。

それは誰よりもイエスさまご自身が、神さまのみ位をすてて私たちのなかに住んでくださり、十字架への道を歩んでくださったことからわかります。イエスさまは、私たちの醜い罪を全部背負って十字架にかかり、私たちが受けるべき

罰を身代わりに受けて死なれました。それで、心からイエスさまを信じる人は、罪赦され、光の子どもとして生きることができるのです。イエスさまは、限りなく低く、いのちまで捨てて、仕える愛を教えてくださいました。仕えるとは、他の人の益を考えて、自分のものを分かち合うこと。イエスさまの深い愛を知らされた私たちは、イエスさまから受けた大きな愛の負債を、周りのお友達に仕えることで、お返ししていくことができるのです。



◆お祈り

「いのちを捨てて仕える愛を教えてくださいましたイエスさま、ありがとうございます。イエスさまが愛して下さったお友達を大切にして歩むことができますように。」

(北新潟キリスト教会牧師 原山康伸)

10月7日

テーマ：わたしに何をしてほしいのか

聖書箇所：ルカの福音書18章35節～43節

◆今日のみことば

彼が近寄って来たので、「わたしに何をしてほしいのか」と尋ねられると、彼は、「主よ。目が見えるようになることです」と言った。
ルカの福音書18章41節

◆メッセージ

エリコという町に、目の見えない男の人がいました。男の人は道のはしっこにすわって、通りかかる人からお金や食べ物をもらってくらしていました。ある日、耳をすましていると、いつもとはちがうにぎやかな声がします。聞いてみると、イエスさまがここをもうすぐお通りになるというではありませんか。今まで、たくさんの病気の人をなおしたり、不思議なことをおこなったりされたというあのイエスさまです。男の人は、目は見えませんが、イエスさまのうわさを聞いて、このお方がただの人ではない、神さまが約束してくださった救い主ではないか、と思ったのです。



イエスさまが近くまでこられたことがわかりました。男の人は大きな声で「ダビデの子のイエスさま、私をあわれんでください」とさげびました。あわれんでくださいとは、神様のすばらしいお恵みを私にもください、ということです。男の人は何度も何度もさげびました。

イエスさまは、このさげびを聞いてくださいました。そして、立ち止まってくださったのです。イエスさまは、男の人に「わたしに何をしてほしいのか」と聞かれました。イエスさまは、「あわれんでください。おまかせします。」というだけでなく、お願いしたいことを具体的に言って

いい、とおっしゃったのです。男の人は、「主よ、目が見えるようになることです」と答えました。イエスさまには目が見えるようにして下さる力がある、ということを感じているから、そう答えました。こんなことは無理だろう、と思ったらお願いできませんね。イエスさまが、「見えるようになれ。あなたの信仰があなたを直したのです。」と言われると、なんと、ずっとずっと見えなかった男の人の目が見えるようになったのです。男の人は、これは神さまのわざだとわかりました。そして、神さまはすばらしいと言いながらイエスさまについて行きました。

イエスさまは、神の子ですから、わたしたちが考えていることをすべて知っておられます。それでも、「わたしに何をしてほしいのか」と声をかけてくださいます。わたしたちがイエスさまに自分の口で、イエスさまにはできると信じていると話すのを待っていてくださっています。イエスさまに具体的にお願いしましょう。



◆お祈り

「イエスさま。私をあわれんでください。あなたが、聞いてくださるので、私の心の中の願いをお話します。」

(新津福音キリスト教会伝道師 小池紀子)

10月8日

テーマ：ザアカイ

聖書箇所：ルカの福音書19章1～10節

◆今日のみことば

人の子は、失われた人を捜して救うために来たのです。

ルカの福音書19章10節

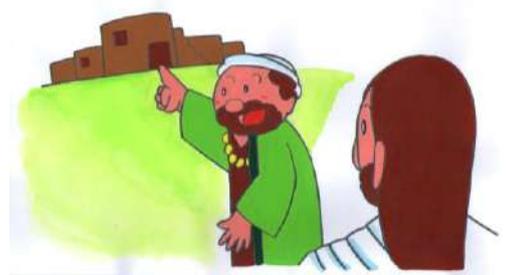
◆メッセージ

エリコという町にザアカイさんという取税人がいました。取税人は、町の人からお金を集めるお仕事です。彼は、お金が大好きだったので、みんなから集めたお金の中から、少しずつ取って自分のポケットに入れていました。だから、町の人からはとっても嫌われていたのです。お金さえあれば、大丈夫と思っていました。

ある日、このエリコの町に、イエスさまがやってきました。「おーい、この町にイエスさまがやってきたぞー」「イエスさまー。イエスさまー。」町の中がザワザワしていました。そんな町の賑わう声^{なごむ}がザアカイさんの耳にも入り、彼もイエスさまを一目見るために、出かけていったのです。イエスさまの周りには、いつも沢山の人がいました。ですから、イエスさまの方へ近づこうとしても、人が多すぎて、前へ進めません。ザアカイさんは背が低かったので、背伸びをしても、みんなの背中とお尻しか見えませんでした。みんなから嫌われていたので、誰も前には行かせてくれませんでした。ザアカイさんはお金はたくさん持っていましたが、本当はお友だちもいなくて孤独で毎日とっても寂しかったのかもしれないね……。



ザアカイさんは、イエスさまを見るために、近くの木の登りはじめました。すると、イエスさまは木に登ったザアカイさんの方へと近づいて来られたのです。そして言われました。「ザアカイ。急いで降りて来なさい。きょうは、あなたの家に泊まることにしてあるから。」ザアカイさんは、驚いたことでしょう。「え？イエスさまは、私のことを知っていてくれる？嫌われ者の私の家に来てくれるのは、なぜ？」と。ザアカイさんは、急いで降りて来て、そして大喜びでイエスさまをお迎えしました。イエスさまと食事をしながら、イエスさまの話を聞きました。イエスさまに出会い、イエスさまの愛を知ったザアカイさんの人生は変えられました。「私^{わたし}がだまして受け取ったものを四倍にしてお返しします。貧しい人たちに財産の半分を分かち合います。」自分のために人をだましていた人生から、イエスさまのように自分を犠牲にして、人に与える人生へと変えられたのです。



「人の子」とはイエスさまの事です。そして、「失われた人」とは、神さまから離れ、罪の中に生きるザアカイさんや私たちの事です。私たちもイエスさまに出会い、悔い改めて、神さまの所へ戻るとき、それまで自分中心に生きてきた考え方が、神さま中心の考え方へと変えられるのです。



◆お祈り

「イエスさまは、私たちの所にも来て、いつも一緒にいてくださいますから、ありがとうございます。私たちも、自分中心ではなくて、神さま中心に歩むことができますように。」

(富士川教会牧師 佐藤賢祐)

10月9日

テーマ：ミナのたとえ

聖書箇所：ルカの福音書19章11節～27節

◆今日のみことば

主人は彼に言った。「よくやった。良いしもべだ。あなたはほんの小さなことにも忠実だったから、十の町を支配する者になりなさい。」
ルカの福音書19章17節

◆メッセージ

お父さんやお母さんからほめられたことはありますか？どんなことをほめられましたか？大好きなお父さんやお母さんからほめられると、嬉しいですね。大好きな神さまにもほめてもらいたくありませんか。神さまはどんなことをほめてくださるのでしょうか。

イエスさまは、そのことをたとえ話して教えてくださいました。

ある人が、十人のしもべに1ミナずつお金を渡し、「これを使ってお仕事をしてください」と言いました。その人は、遠い国に行き帰って来た時、10人の人呼びました。すると、一番目の人は、「預かった1ミナで10ミナ増やしました」と言いました。主人は、その人をほめました！

「わたしが預けた小さなものを喜んで使いましたね。預けたものを使って仕事をするように、と言いつけたことを言われたとおりに使いましたね」ととても喜んで、「十の町をおさめる人にする」と言いました。二番目の人も、「預かった1ミナで5ミナ増やしました」と言いました。主人はその人もほめて「五つの町をおさめる人にする」と言いました。ところが、次の人は、1ミナをふるし

きに入れたままで何もしませんでした。ふるしきに包んで使わなかった人は、主人がけちで悪い人だと勘違いしていたからです。主人から預かったものを喜ばず、言われたとおりにしませんでした。主人は、その人からお金を取り上げて、10ミナ持っている人に渡しました

神さまは、何をほめてくださるのでしょうか？神さまから預かっているものを、喜んで神さまのために使うことで。私たちも、神さまから素晴らしいプレゼントを預かっています。あなたは、それを生かしていますか。リビングストーンという宣教師がいました。彼は、神さまからいただいた優秀な脳を大いに使って生かしました。子供の時、昼間工場で働き、夜は将来医者になるための勉強をしました。後に、彼はアフリカに渡り、病院も医者もいない村の貧しい人々を救う人となりました。あなたも、神さまから預かったものを有効に使うなら、神さまはあなたの持っているものを豊かに増やし、用いてくださいます。

◆お祈り

「神さま、あなたから預かっている良いものを大切に使います。あなたの計画のために私を使ってください。」

(亀田キリスト教会牧師 松下展久)



10月10日

テーマ：エルサレム入城 にゅうじょう

聖書箇所：マタイの福音書 ふくいんしょ 21章 しょう 1節～11節 せつ

◆今日のみことば

もしだれかが何か言ったら、『主がお入用なのです』と言いなさい。そうすれば、すぐに渡してくれます。
マタイの福音書 ふくいんしょ 21章 しょう 3節 せつ

◆メッセージ

ゆかりちゃんは小学3年生。中学生のお姉さんがいます。そして今日は、その中学校の運動会。ゆかりちゃんも、お父さんお母さんと一緒にお姉さんを活躍を見るために中学校にやってきました。「さんくみ～！ゴーファイト～」。クラスの男子たちが、声をひとつにして応援しています。その隣では、ピンクや黄色の衣装を着た女子たちが、オリジナルのダンスで応援しています。「きれいだな～」。ゆかりちゃんは、はやく中学生になりたいと思いました。でも、応援団の中にも、ダンスチームの中にも、お姉さんはいません。あたりを見回しました。すると応援団のおかげで、何かぬいものをしているお姉さんを見つけました。ゆかりちゃんが近づくと、お姉さんも気づいてほほえみ返しました。「お姉ちゃん、何をぬっているの?」「これはね、うちのダンスチームの衣装。さっき破れちゃったので、直してるの。私はおどるのは苦手だけど、自分のぬったものがみんなの役に立つんだと思うと、とてもうれしいの」。走る人、応援団で声を出す人、ダンスする人、衣装を縫う人、いろいろな人がいて、運動会なんだなあ、とゆかりちゃんは思いました。

今日の聖書箇所は、イエスさまが十字架にかかるためにエルサレムに入られるときに、たくさんの人々が思いをひとつにして働いたことが書かれているところです。

「ろばの子をほだいて、連れてきなさい」というイエスさまの言葉に従った、二人の弟子たち。イエスさまのためにろばの子を貸してくれた村の人。そのろばの子に乗



ったイエスさまの進む先に、自分たちのうわぎやたくさんの木の枝を敷き詰めた人びと。思いをひとつにしたのは人間だけではありません。か弱いろばの子も、同じ思いのなかで、イエスさまを背中に乗せながら歩いて行きました。みんなが自分のできることや持っているものを、イエスさまのためにささげました。いやいやながらではありません。喜びに満ちあふれていました。なぜなら、私たちがどんなに小さくて弱い者でも、「わたしはあなたを必要としているのだよ」とイ

エスさまは声をかけてくださるからです。

そしてきょう、私たちひとり一人にも、「主がお入用なのです」と呼びかけてくださるのです。

◆お祈り

「神さま、今日一日、神さまのお役に立てるように、おみちびきください。」

(豊栄キリスト教会牧師 近 伸之)

10月11日

テーマ：宮きよめ

聖書箇所：マタイの福音書21章12節～17節

◆今日のみことば

そして彼らに言われた。「『わたしの家は祈りの家と呼ばれる』と書いてある。それなのに、あなたがたはそれを強盗の巣にしている。」

マタイの福音書21章13節

◆メッセージ

イエスさまは、ロバの子に乗って、エルサレムに入城されました。たくさんの人たちが、「ダビデの子にホサナ。祝福あれ。」と言って、大喜びでイエスさまをお迎えしました。

イエスさまは、エルサレムの町に着くと、すぐに宮に入られました。宮に入られたイエスさまは、たいへん驚かれました。どうしてでしょうか。宮が強盗の巣になっていたからです。宮は、神さまがお住まいになる場所です。ところが、神さまにささげる動物を売り買ひして、お金もうけをしている人たちがたくさんいたのです。それはまるで、自分のほしいもののために、人を傷つけても手に入れようとする強盗のようでした。



イエスさまは、この様子を見て、とても悲しまれ、お怒りになりました。そして、何とイエスさまは、宮の中で売り買ひする者たちを追い出し、両替人の台や、鳩を売る者たちの腰掛を倒されたのでした。二度とこのよ

うなことをしないように、と倒されました。



宮とは、今の教会のことです。教会とは、どのような場所でしょうか。教会は、お金もうけをする場所でしょうか。そうではありませんね。イエスさまは、「祈りの家」といわれました。教会は、神さまにお祈りをするところです。この世界を造り、私たちにいのちを与え、私たちに必要な恵みを与えてくださる神さまにお祈りをするところです。また、教会は、困っている人を助けたり、良い行いをするところです。イエスさまは、宮の中で、目が見えない人や足が不自由な人のたち

の病気を直してあげました。

また、教会は、神さまに賛美をささげるところです。イエスさまは、「ダビデの子にホサナ」と言って、宮で元気に賛美をささげる子どもたちの姿を見て、たいへん喜ばれました。ホサナ、というのは、私を救ってくださるすばらしいお方はあなたです、という信仰をあらわす賛美のことばです。

皆さんは、教会に何をするためにいきますか。教会には、色々な楽しいことがあると思います。でも、教会は、イエスさまが教えてくださったように、神さまにお祈りをし、良い行いをし、賛美をささげるところです。

◆お祈り

「毎週日曜日、教会へ行き、神さまにお祈りをし、良い行いをし、神さまに賛美をささげることができますようにしてください。」

(佐渡金井キリスト教会牧師 矢田幹太)

10月12日

テーマ：神のものは神に

聖書箇所：ルカの福音書 20 章 19～26 節

◆今日のみことば

カイザルのものはカイザルに返しなさい。そして神のものは神に返しなさい。ルカの福音書 20 章 25 節

◆メッセージ

「神を信じる人をいじめる悪いカイザル（皇帝）に、税金など払うものか。神さまへの献金だけで十分だ。」
「いや、国の大切な決まりは守るべきだ。そうしないなら罰せられるべきだ。」神さまを信じている人の間で、当時、
こんな言い争いがありました。そこでイエスさまを困らせようとたくらむ敵（律法学者や祭司長たち）は、考えま
した。「税金を払うことは、神さまの教え（律法）にかなっていますか、いませんか、とみんなの前で質問しよう。
税金は払わなくてもよい、と答えれば、国のお役人がこらしめてくれる。税金は払うべきだ、と答えれば、カイザ
ルを憎み税金を払いたくないと思っている多くの人に嫌われるだろう。」しかし、イエスさまは敵のまわし者
（問者）の悪だくみを見抜き、その質問に対してこうお答えになりました。

「カイザルのものは、カイザルに。神のものは神に返しなさい。」

国は、みんながだれでもお金で売り買いできる「しくみ」とお金をつくり、
それを管理します。そのためにいろいろな規則があります。たとえ国の偉い
人が悪い人だからといって、国のしくみや大切な規則にさかたってよいこ
とにはなりません。「カイザルの顔が刻まれたデナリ硬貨は、カイザルがつく



ったもの。だから、税金（硬貨）は、カイザルのものとして、国に返しなさい（払いなさい）」ということです。一方、
神さまはこの全世界をつくられたお方。人も、人の集まりである国も、すべてをあわれんで、生かしてくださってい
るお方です。この神さまへ感謝をこめて献金することは聖書で教えられている大切なことです。でも、神さまのもの



のは、お金だけではありませんね。この世界とこの世にあるすべてのものは、神さまが造られた
もの。私も、神さまのものです。すべてを神さまにお返しすることを、イエスさまは教えてくだ
さいました。これは私のもの、と握りしめないように。この世の決まりごと、神さまのものを神
さまにお返しすることも、両方、いやいやながらではなく、喜んで守り行っていきましょう。

◆お祈り

「この世のきまりごと、神さまにささげること、喜んで行 うことができますように」

（新潟福音教会牧師 笹川雅弘）

10月13日

テーマ：レプタをささげた女の人

聖書箇所：マルコの福音書12章41～44節

◆今日のみことば

みなは、あり余る中から投げ入れたのに、この女は、乏しい中から、あるだけを全部、生活費の全部を投げ入れたからです。」
マルコの福音書12章44節

◆メッセージ

教会学校では、礼拝の中で献金をしますね。あなたは、「お母さん、献金ちょうだい。」といただいて、それを献金にしますか？それとも、おこづかいの中から自分で決めて、献金しますか。

イエスさまは神殿の献金箱に向かって座っておられました。大勢の人々が献金を投げ入れていました。お金持ちの人はたくさんの献金を投げ入れていました。音がしていたかも知れません。ジャラジャラー。次の人もジャラジャラー。大きな音です。いかにもたくさん献金したような。そこにひとりの女の人がやってきて献金を投げ入れました。コン、コン。



人々の様子をじっと見つめておられたイエスさまは、お弟子さんたちをお呼びになり、おっしゃいました。「この女の人、献金箱に投げ入れた人よりもたくさん投げ入れました。」と。「コンコン」と、ほとんど音がしないくらい。レプタ銅貨はいちばん安くて小さなお金でした。でもイエスさまは、この貧しい女の人がだれよりもたくさん投げ入れたとほめてくださったのです。

イエスさまはどうしてこのように言われたのでしょうか。イエスさまはささげる人の心を見ておられたからです。この女の人はとても貧乏でした。結婚していたご主人が先に亡くなってしまい、一人で生きていかなければなりません。このレプタ二個をおささげしてしまったらその後、

食事をすることができないくらいでした。

でも女の方は知っていました。神さまは、食べ物も服もおうちも、生活に必要なものは全部備えてくださるお方であることを。だから、持っていたもの全部をささげました。乏しい中からあるだけ全部、生活費の全部をおささげしたのでした。神さまのことを心から信頼して感謝してささげたこの女の人を、イエスさまは喜んでくださっています。あなたはどんな思いで献金していますか。自分に与えられている中から、喜んでささげたいですね。

◆お祈り

神さま、これからも、心から感謝して献金をおささげできますように。アーメン。

(浜松中沢教会伝道師 小川紀子)

10月14日

テーマ：天地は滅び去ります

聖書箇所：マタイの福音書24章35節

◆今日のみことば

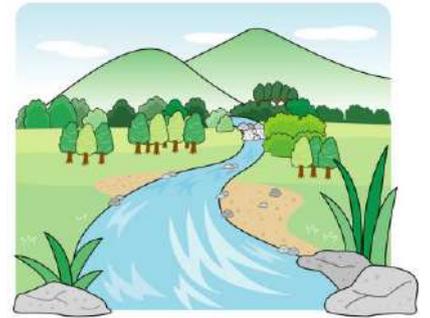
この天地は滅び去ります。しかし、わたしのことばは決して滅びることがありません。

マタイの福音書24章35節

◆メッセージ

四季がありますね。春、夏、秋、冬が来て一年です。みなが一年を過ごし、又一年を過ごします。そして私たちは年をとります。年をとることは、私たちだけでなく、自然の世界も同じです。花も草も同じように春には芽を出し花を咲かせ、夏には葉が付き、秋には実を結び、冬には枯れてしまいます。この様に私たちに見える自然の世界にも、終りがあるのです。私たちもやがて年をとりますし、死んでいくのです。季節はめぐって繰り返すようですが、イエスさまは「天地は滅び去ります。」とはっきりと、お話になられました。

しかし、神さまの約束を知らせている神さまのことばは、決して滅びることはないのです。神さまの約束によれば、イエスさまを信じるものは、永遠のいのちをいただくのです。神さまのみことばは、変わることがありません。絶対に守られる約束です。だから、約束のみこと



ばをしっかりと暗唱（覚えて言うこと）しましょう。「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのち

を持つためである。」ヨハネの福音書3章16節。御子イエスさまを信じる者は、御子を遣わされた父なる神さまを信じることとなります。そして、御子を信じる者の心には、聖霊なる神さまが住んでくださるのです。たとえ、地が崩れ、水に押し流され、世界が滅びるような時にも、心配りりません。愛して下さっている神さまが、死からいのちにうつして下さいます。



さあ、今日も滅びることのない神さまの約束を信じ、私の心に住んでくださるイエスさまの御霊を信じてお祈りし、助けていただきましょう。

◆お祈り

私の心に聖霊をお与えくださり感謝します。今日も聖霊と祈りの中で相談しながら導いてくださいますように。

(新津福音キリスト教会牧師 松永堡智)

10月15日

テーマ：賢い娘たちのたとえ

聖書箇所：マタイの福音書25章1～13節

◆今日のみことば

だから、目をさましていなさい。あなたがたは、その日、その時を知らないからです。

マタイの福音書25章13節

◆メッセージ

世界中にはいろいろな結婚式があるのを知っていますか。花婿さんと花嫁さんがきれいな色とりどりの衣装で着かざったり、いろいろなお祝いが続いたりと・・・、みなさんはどんな結婚式に出たいですか。

聖書の時代にも結婚式がありました。10人のお姉さんたちが花むこをお迎えしてお祝いするために、あかりを用意して待っていました。10人のうち5人のかしこいお姉さんたちは、あかりも油も用意していました。でも、ほかの5人のお姉さんたちは油の用意を忘れていました。なんとかなる、と思っていたようです。ところが、花婿の到着が遅れて夜になってしまいました。



お姉さんたちは眠くなって、とうとうみんな寝てしまいました。真夜中になって「さあ花婿が来られた。迎えに出なさい。」という、声が聞こえました。お姉さんたちはいそいで飛び起きて、あかりの用意をしました。時間がたっていたので、油がきれてしまいました。油の用意を忘れた5人のお姉さんたちは、かしこいお姉さんたちに、油を分けてくれるように頼みましたが、かしこいお姉さんたちは自分の分しかありませんでしたので、お店



に買いに行くようにとすすめました。それで油の用意を忘れた5人は、お店に油を買いに行きました。するとその間に花婿が着きました。用意のできていたかしこいお姉さんたちは、花婿といっしょに式場に入り、戸が閉められ、お祝いが始まりました。お店に油を買いに行っていた5人のお姉さんたちが帰ってきて戸を開けてくれるように頼みましたが開けて

もらえませんでした。用意していることが大切です。何を用意しなければならないでしょう。かしこいお姉さんたちは、油でしたが、私たちは、イエスさまを迎える信仰の備えをしていなければいけません。イエスさまは、再び来る、とおっしゃいました。イエスさまはみんなを救うために来られます。しかしいつどんな時に来られるのかはだれも知りません。油断して用意していないと、お迎えできません。どんな用意が必要でしょうか。聖書を読んで、聖霊なる神さまにしたがっていきることです。いつイエスさまが来られてもいいように、いつも聖書を読んで、お祈りして待ちましょう。

◆お祈り

「イエスさまがいつ来られてもいいようにいつも聖書を読んでお祈りして待つことができるように助けてください。」

(村上福音キリスト教会牧師 宮本直洋)

10月16日

テーマ：最も小さい者のひとりにしたのは

聖書箇所：マタイの福音書25章31～46節

◆今日のみことば

わたしの兄弟たち、しかも最も小さい者たちのひとりにしたのは、わたしにしたのです。

マタイの福音書25章40節

◆メッセージ

私たちは、今直接イエスさまの声を聞いたり、姿を見たり体 にふれることが出来ません。でも、イエスさまは言われます。「わたしの兄弟、最も小さい者たちにしたのは、わたしにしたのです」と。私たちはイエスさまに会って何かをすることはできないのに、なぜでしょう。

イエスさまの兄弟、小さい者たちの一人にしてあげることが、イエスさまにしていることになるとイエスさまは教えてくださいました。じゃあ、イエスさまの兄弟、小さい者って誰でしょう。イエスさまを信じる人は、「神の子」です。イエスさまは神さまのみ子ですから、「神の子」である私たちは、イエスさまの兄弟でしょう？その兄弟の中の一人が、困っていたり、痛んでいたるとき、その人たちにしてあげることが「わたし(イエスさま)にしたのです」。水を持って来てあげたり、持っているものを分かち合ったりできること。

みんなの教会に困っている人、悲しそうにしている人、苦しんでいる人がいるでしょうか。自分のことばかりしていて、他の人のことは知らんぷりしていませんか。他の人がどんな思いでいるのか、心を遣っていますか。私たちは教会の中で困っている人たちのために何ができるでしょうか。声をかけること。話を聞くこと。病気の人のためにお見舞いに行けるかも。教会のお掃除をお手伝い出来るかも。教会の中で困っている人たちのために何ができるか、考えてやってみましょう。自分の持っているものを分かち合い、自分にできる



ことをすることです。イエスさまに対してするように、心をこめて。

イエスさまは、その私たちを見ておられます。見て、覚えていてくださり、やがて、神さまの前に立つときに、「あなたがしたことは、わたしにしてくれたことだよ。」とほめてくださいます。今日、周りの人に心を向けてみましょう。一番そばにいる人は、悲しんでいませんか。苦しんでいませんか。私にできること、してみましょう。



◆お祈り

教会で困っている人がいたら、その人のことを助けられますように。

(新津福音キリスト教会牧師 松永優)

10月17日 テーマ：ナルドの香油

聖書箇所：マルコの福音書14章3～9節

◆今日のみことば

この女は、自分にできることをしたのです。埋葬の用意にと、わたしのからだに、前もって油を塗ってくれたのです。

マルコの福音書14章8節

◆メッセージ

あなたの宝物はなんですか？一番大事にしているもの。もし、それを、誰かにプレゼントするとしたら、それはどういうことでしょうか？一番大切なものより、その人のほうが大切っていうことですね。

大事な宝物を、イエスさまにあげた女の人があります。イエスさまのことが大好きだったからです。

ある日、女の人が住んでいるベタニヤ村に、イエスさまが来られました。皆イエスさまのお話を聞きに行きました。お食事の時、イエスさまは、こうおっしゃいました。「わたしはもうすぐ十字架にかかって死にます。そして三日目によみがえります。」お話を聞いた女の方は思いました。「イエスさまが死ぬですって？まさか、本当かしら？」大好きなイエスさまのお顔を見ているうちに、だんだん女の方は胸がいっぱいになってきました。「そうだ！」女の方は急いで、宝物が入ったつぼを持ってきました。ずっと大事にしていた宝物です。中に、いいにおいのする油がはいっています。外国から取り寄せたとっても高いものでした。女の方は、イエスさまの近くに行き、「えいっ！」。何と、つぼを、ガッちゃん！と割りました。そして、いい香りのする油を

全部、イエスさまの頭に注ぎました。おしげもなく、全部。

まわりの人はビックリ仰天しました。そして、こう言いました。「ああ、もったいない」「この油は、買ったなら300万円だぞ！」「なんで売って、お金を貧乏な人にあげなかったんだ！」

「そうだそうだ！」お弟子たちは、女の人をしかりました。でも、イエスさまはこうおっしゃいました。「この女の方は、わたしにとっても良い事をしてくれました。大事な宝物を、わたしにくれたのです。わたしのことを一番大切だと表してくれました。わたし

が十字架にかかって死んだあと、お葬式でぬる油を、前もって今、体にぬってくれたのです。」イエスさまは、この女の方の心を知っていただきました。だから、イエスさまはこの女の方のことを、とっても喜んでくれましたよ。聖書(6～9節)にそう書いてあります。

イエスさまは、わたしの罪のみがわりに、十字架にかかって死んでいただきました。そして三日目によみがえっていただきました。あなたは、この救い主イエスさまに何をさしあげたいと思いますか？

◆お祈り

「わたしはイエスさまが大好きです。わたしの宝物を、イエスさまにおさげできますように。」

(湖西キリスト教会伝道師 山本恭代)



10月18日

テーマ：弟子の足を洗うイエスさま

聖書箇所：ヨハネの福音書13章1～17節

◆今日のみことば

それで、主であり師であるこのわたしが、あなたがたの足を洗ったのですから、あなたがたもまた互いに足を洗い合うべきです。
ヨハネの福音書13章14節

◆メッセージ

あなたは、ほかの人からたいせつにされ、親切にされたことがあるでしょうか。そういうときは、愛されていると感じてとてもうれしい気持ちになりますね。

聖書には、神さまが私たち人間をととても深く愛していてくださるとくりかえし語られています。あなたは神さまのすばらしい愛を受けとめていますか。

イエスさまはどのように愛を示してくださっているでしょうか。



間もなく捕えられ十字架で死ぬというこのたいせつなときに、イエスさまは、弟子たちの汚れた足を洗い手ぬぐいでふいてくださいました。これは、一番下の召使いがする、大変な仕事でした。だって、旅をしてきた足は、どろだらけでしたから。それなのに尊敬する先生であるイエスさまがしてくださるなんて、弟子たちにはもったいないことだと感じられたようです。これが、イエスさまの示された愛でした。人の汚れたところをきれいにするため、自分が汚れることをいや

がらず、それどころか自分から進んで引き受ける心です。この心をもってほかの人に仕えること、これがイエスさまの教えてくださった「愛する」ということなのです。

あなたは、イエスさまのように、ほかの人の汚れた足を喜んで洗ってあげることができるでしょうか。それとも、「なんで私がそんなことをしなくてはならないのか!」と怒るでしょうか。イエスさまは、もしあなたがイエスさまの弟子として従うのなら、このときのイエスさまの心にならうことがたいせつだと教えてくださったのです。あなたのここが悪い、と人の汚れを指さすのではなく、その汚れをきれいにするために、かかわること。みんなお互いに、このような愛の心で互いに仕え合うとしたら、どんなにすばらしいことでしょうか。

◆お祈り

「自分のことばかりでなく、ほかの人のために喜んで仕えることができるように、イエスさまのように愛する心を与えてください。」

(聖十字架福音教会牧師 武藤正信)

10月19日

テーマ：「最後の晩餐」

聖書箇所：マタイ26章26～29節

◆今日のみことば

これは、わたしの契約の血です。罪を赦すために多くの人のために流されるものです。

マタイ26章28節

◆メッセージ

十字架を控えたイエスさまが弟子たちと最後の過越の食事をしている場面です。イエスさまが、人の救いのために十字架におかかりになることを伝えて



ているところです。教会の礼拝で、聖餐式が行われていることを知っていますか。この場面は、聖餐式の起源となっているところです。ここにおいて、イエスさまはパンとぶどう酒によって、ご自分が受ける十字架について話されています。

26節、イエスさまは、まずパンを祝福して、神さまのすばらしさを表すものとして取り分け、裂き、弟子たちに与えて「取って食べなさい。これはわたしのからだです。」とされています。神に背いて以来、罪と死に支配されている人々の身代わりとしてご自分が十字架刑を受けると言われているのです。



27節～28節、続いて、イエスさまは杯をとり、神さまの愛に感謝し、「みな、この杯から飲みなさい。これは、わたしの契約の血です。罪を赦すために多くの人のために流されるためです。」と言って、彼らに渡されました。ここで特に、契約の血と言っているのは、神の御子であるご自身が血を流すことによって、罪の赦

しが完全に与えられる新しい契約が実現することを言っておられるのです。

29節、最後に、イエスさまは、神が御心を成し遂げてすべてを新しくする終わりの時まで、もはや過越の犠牲は必要ない、罪のための過越は御子の十字架によって完成すると言われます。ご自分が人の罪のために十字架にかかり、死ぬことを弟子たちに明らかにし、罪の赦しが成就することを伝えておられるのです。

教会は、聖餐式のたびに、このイエスさまの救いの恵みを思い起こし、感謝とともに信仰を思い起こしています。

◆お祈り

「父なる神さま。イエスさまが私たちを罪より救うために十字架の死まで受けてくださったことを感謝します。どんな時でも、新しくされた神の子どもとして生きる者とさせてください。イエス・キリストのお名前によって祈ります。アーメン。」

(金沢中央教会牧師 川口昌英)

10月20日

テーマ：「イエスさまが道、真理、いのち」

聖書箇所：ヨハネの福音書14章6節

◆今日のみことば

イエスは彼に言われた。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。・・・」

ヨハネの福音書 14章6節

◆メッセージ

ある時、教会に電話がかかってきました。そして、いきなり「真理はあるのですか？」と疑うような声で聞いてきたのです。その声を聞くと、うそや偽りが多いこの世にあって、真理（変わらない本当のこと）を求めても、求めも見つけることができなかつた苦しみ伝わってきました。真理とは何でしょう。真理はどこにあるのでしょうか。



イエスさまは十字架にかかる前に、弟子たちに次のように言いました。「天国（父なる神様の家）で、あなたがた（弟子たち）を迎えるための場所を用意するために行く。」すると、弟子のひとりがイエスさまに「主よ。あなたがどこに行くのか分かりません。」と聞き返したのです。そこでイエスさまは答えられました。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。」言いかえると次のようになります。「あなたの目の前には、天国のゴールへ行く道がはっきりしています。わたしがその道です。わたしが神さまの真理（本当のこと）そのものです。わたしが永遠のいのちそのものです。だから、たしかに、わたしによって、何の不安もなく、真理といのちが手に入ります。反対に、わたし以外のところでいくら頑張っても、危険で不安な人生になるだけです。」



イエスさまの言われている真理とは何でしょうか？それは父なる神さまがイエスさまによってあらわして下さった、私たちの罪からの救いです。この救いによって、私たちは神のいのち、永遠のいのち（天国の約束）をいただくのです。

イエスさまを信じて生きるなら、真理と永遠のいのちをいただいて、イエスさまが歩まれた道を私たちも歩むのです。イエスさまとともに、教会のみんなとともに、

天国の住まいを目指して力強く出発しましょう。

◆お祈り

「イエスさまが用意して下さった道に従って、天国の家を目指して歩むことができますように。」
(新津福音キリスト教会牧師 小池宏明)

10月21日

テーマ：「もう一人の助け主」

聖書箇所：ヨハネの福音書14章16節

◆今日のみことば

わたしは父にお願いします。そうすれば、父はもうひとりの助け主をあなたがたにお与えになります。その助け主がいつまでもあなたがたと、ともにおられるためにです。

ヨハネの福音書 14章16節

◆メッセージ

皆さんは、お引越しなどで誰かとお別れをして、寂しい気持ちになったことがありますか？そんな時に、最後にお手紙を渡すとしたら、心をこめて書くとおもう。イエスさまも、もうすぐ弟子たちとお別れをしなくてはなりません。イエスさまと弟子たちは、寝るとき、起きるとき、食事のとき、いつも一緒でした。イエスさまはその弟子たちにどうしても伝えておきたいことがありました。それはこんな言葉でした。「わたしはもうすぐいかななくてはならないけれど、父なる神さまは、もうひとりの助け主をあなたたちに必ず与えてくれます。」弟子たちはきっと思ったことでしょう。「もうひとりの助け主って、どんなお方なのかなあ…？」

「もうひとりの助け主」とは、聖霊なる神さまのことで、「真理の御霊」（ヨハネ14:17）とも言われます。真理とは、人生で知るべき一番大事なことです。お金持ちになるより、有名になるより、その真理を知ることがずっと大事です。その真理というのは神さまのことで、聖霊なる神さまは、私たちに神さまのことを深く教えてくれ、神さまを信じる心を与えてくれ、罪を悔い改める心や人を愛する心を与えてくれます。そうやって、いつも一緒にいて助けてくださるのです。



イエスさまは、聖霊なる神さまのことを「風」にたとえて教えてくださいました。風は目に見えず、どこから来て、どこへ行くのか分かりませんが、吹けば草木は音を立て、湖は漣を立て、確かに風があるのが分かります。聖霊なる神さまも目には見えませんが、イエスさまを信じる私たちの心の中に本当に住んでくださっているのです。その聖霊なる神さまを通して、イエスさまも、そして父なる神さまも、いつも私たちと一緒にいてくださいます。イエスさまと弟子たちは、本当はお別れではなかったのです。「その方はあなたがたとともに住み、あなたがたのうちにおられるからです。わたしは、あなたがたを捨てて孤児にはしません。」（ヨハネ14:17～18）嬉しいですね。

◆お祈り

「いつも、どんなときも、父なる神さま、イエスさま、そして、聖霊なる神さまが一緒にいてくださって、助けてくださることを感謝します。」

（新発田キリスト教会牧師 本間羊一）

10月22日

テーマ：「イエスさまがくださる平安」

聖書箇所：ヨハネの福音書14章27節

◆今日のみことば

わたしは、あなたがたに平安を残します。わたしは、あなたがたにわたしの平安を与えます。わたしがあなたがたに与えるのは、世が与えるのとは違います。あなたがたは心を騒がしてはなりません。恐れてはなりません。

ヨハネの福音書 14章27節

◆メッセージ

みんなには、安心できる場所、ほっとできる時間がありますか？それはお家かもしれないし、学校かもしれません。お家のトイレっていう人も結構いるみたいですよ。特別な場所や時間じゃなくても、自分の好きなことをしているときとか、好きな誰かと一緒にいる時間かもしれないですね。それとは逆に、不安な時、寂しい時もあります。友だちとケンカしちゃった時、嫌なことをしたりされたりした時、困ったことがあった時、ひとりぼっちになって心細い時。私たちの心はすぐにざわざわして落ち着かなくなります。



今日のみことばは、イエスさまが十字架にかかれる前に弟子たちにお話しになったことばです。弟子たちがこれから先に不安になる出来事がたくさんあるというのをイエスさまは知っていました。イエスさまが十字架にかけられてしまい、取り残された弟子たちは悲しくて心細くて、その後どうしたらいいのかわからなくなってしまう。周りの人たちはイエスさまを十字架につけた人たちですから、弟子である自分たちもバカにしたり攻撃してくるかもしれません。とても怖く、心は落ち着かなくなるでしょう。そんな弟子たちに、イエスさまは今日のみことばを話されたのでした。

イエスさまが「わたしの平安」と言われる、イエスさまが与えてくださる平安。それはイエスさまがいつも、どこにでも一緒にいてくださるという安心であり、私たちが決してひとりぼっちにはしないという嬉しくて心強い約束です。これはこの世が与えるものとは違います。私たちが不安になる時、楽しいことをしたり安全な場所に行ってその不安をごまかそう・忘れようとして、でも次の困ったことがあると、またすぐに元どおりになってしまう。しかし、イエスさまと一緒にいてくだされば、たとえ嵐の中でも、どうしようもなく悲しい時でも、一人ぼっちの夜にも、僕たちの心は落ち着き、平安が与えられるのです。イエスさまはそのために十字架にかかれたのですから。



◆お祈り

「いつも、どんなときも、父なる神さま、イエスさま、そして、聖霊なる神さまと一緒にいてくださって、助けてくださることを感謝します。」

(金沢中央教会伝道師 山口契)

10月23日

テーマ：「わたしはまことのぶどうの木」

聖書箇所：ヨハネの福音書 15章1節～11節

◆今日のみことば

わたしはぶどうの木で、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人の中にとどまっているなら、そういう人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないからです。

ヨハネの福音書 15章5節

◆メッセージ

たくさんぶどうの贈り物がありました。食べると甘くておいしいぶどうでした。甘くておいしいぶどうを食べると、うれしくなりますね。このようなおいしいぶどうは、どのようにしてできるのでしょうか。おいしいぶどうの実ができるには、枝がぶどうの木にしっかりとつながり、ぶどうの木から栄養をもらうことが大切です。そうすれば、ぶどうの木の枝に甘くておいしいぶどうの実ができるのです。



イエスさまは、「わたしは、まことのぶどうの木です。」と言われました。そして、「あなたがたは、ぶどうの木につながっている枝です。」とも言っておられます。イエスさまがぶどうの木なんですね。私たちは木につながっている「枝」であり、木からぶどうをつくるための栄養をいっぱい受けて実がなってゆきます。

「枝」は、ぶどうの木につながっている時にだけ、おいしい実ができます。ですから、私たちは、イエスさまがぶどうをつくってくださることを信じて、ただイエスさまにつながっていることが大切です。イエスさまにつながるとは、私たちが毎日みことばを読んでイエスさまがどんなかたであるのかを知り、イエスさまとなんでもお話しし（祈り）、どんな時でもイエスさまを信じていくことです。

そうするとその時に、イエスさまの「愛」や「喜び」という実が私たちの中にも実ってゆきます。それは、私たちが、イエスさまといつもつながっていることによってそうなるのです。ぶどうの木であるイエスさまにいつもつながって、たくさんの実を実らせてゆきたいですね。



◆お祈り

「イエスさまは、まことのぶどうの木です。イエスさまといつもつながっていることによって実を実らせてください。」

(金沢めぐみ教会牧師 片山修司)

10月24日

テーマ：「^{かみ}神さまの^{えら}選び」

聖書箇所：ヨハネの福音書^{ふくいんしょ}15章^{しょう}16節^{せつ}

◆今日のみことば

あなたがたがわたしを選んだのではありません。わたしがあなたがたを選び、あなたがたを任命したのです。ヨハネの福音書 15章 16節

◆メッセージ

みなさんはイエスさまを信じたとき、たくさんの神さまの中からイエスさまを選んで信じようと決めたと思っっているかもしれませんね。でもイエスさまは「あなたがたがわたしを選んだのではなく、わたしがあなたがたを選んだのです」と言っておられます。わたしたちは自分でイエスさまを信じたと思っっていますが、じつはイエスさまがわたしたちの心を助けてくださってイエスさまを信じるができるようにしてくださったのです。

それは、わたしたちがイエスさまの弟子になって、神さまの働きのお手伝いをするためです。神さまはわたしたちといっしょに神さまのお働きをしたいのです。神さまのお手伝いができるということは、わたしたちにとって、うれしいことであり、とても幸せなことです。ひとりひとりできることはちがいますが、なにをすればよいかイエスさまが教えてくださいます。そして、あなたがイエスさまのためにしたことは決してむだにはなりません。あなたがイエスさまのためにしたことが多くの人を幸せにするのです。



イエスさまのお手伝いをするといっても、自分の力ではとてもできないと思っようなときがあるかも知れません。でも神さまはわたしたちのお祈りを聞いてくださいます。イエスさまのお名前でお願ひしたものはなんでも神さまが与えてくださるのです。それは自分のほしいものがなんでもいただけるということではありません。イエスさまのお名前でお願ひしたものは与えられるということです。イエス

さまのお名前でお願ひするということは、イエスさまが願っていることをあなたも願ひ、父なる神さまにお祈りするということです。父なる神さまはイエスさまが願っていることはみなかなえてくださいます。ですから、あなたの願っていることがイエスさまの願ひと同じであれば、その願ひはかならずかなえられます。あなたに自信がなくてもだいじょうぶです。神さまに祈れば助けてくださいます。神さまがきっとすばらしいことをしてくださるはずです。

◆お祈り

「イエスさま。わたしのようなものを選んでくださってありがとうございます。どうかあなたのお役に立てるものにしてください。」

(小松中央教会牧師 大畑士郎)

10月25日

テーマ：「世に勝利されたイエスさま」

聖書箇所：ヨハネの福音書16章33節

◆今日のみことば

わたしがこれらのことをあなたがたに話したのは、あなたがたがわたしにあつて平安をもつためです。あなたがたは、世にあつては患難があります。しかし、勇敢でありなさい。わたしはすでに世に勝ったのです。ヨハネの福音書16章33節

◆メッセージ

70年前に終わった大きな戦争の中では、多くの国でクリスチャンたちは信仰のゆえに迫害されました。その一人にマルティン・ニーメラーという人がいます。ドイツの国ではヒトラーという独裁者がまことの神さまを信じる人々を捕らえ、牢屋に入れたり、時には命を奪ったりしていました。しかし、命の危険があつても彼は信仰を捨てず、牢屋へ入れられ、迫害を受けました。戦争が終わった後、このような言葉を言っています。「試練というものは本当に厳しいものだ。そこで、どうして、それを自分が乗り越えられたかと言えば、ただ一日一日、羊飼いであられるキリストの御言葉に支えられて生きてきたのだ」

神さまを信じて、みことばに従うことで、保育園や幼稚園や学校のお友だちや先生から、からかわれたり、バカにされたりしたことはありませんか。悲しい思い出でしたね。まことの神さまを知らない多くの人々の中で、時にはその信仰のゆえにつらい目にあうことがあるかもしれません。イエスさまは、「世にあつては患難があります」と言っています。そのイエスさまは私たちの悲しみや苦しみを知ってくださいます。そして、共にしてくださり、御言葉を持って励まし、力をくださるので、「勇敢」であることが出来るからです。イエスさまが一緒ならば心配はいりません。



私たちに「世に勝った」と言われるイエスさま、十字架で私たちの罪のために死なれ、三日目によみがえられたキリストによって勝利が約束されています。勝つか、負けるか分からない戦いではなく、勝利が約束されている戦いなのです。戦いの中ではつらいこともあるかもしれませんが、でもイエスさまの勝利を信じて進む私たちにその中でも平安が与えられていくのです。今日もイエスさまと共に勝利への道を勇敢に歩んでいきましょう。

◆お祈り

「神さま。イエスさまによって私たちに勝利を与えてくださることを感謝いたします。いろいろな誘惑の中でも、その勝利を信じて歩めるようにしてください。」

(衣笠中央キリスト教会牧師 三浦峰人)

10月26日

テーマ：「ゲッセマネの祈り」

聖書箇所：マタイの福音書26章36節～46節

◆今日のみことば

それから、イエスは少し進んで行って、ひれ伏して祈って言われた。「わが父よ。できま
すならば、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの願うように
ではなく、あなたのみこころのように、なさってください。」

マタイの福音書26章39節

◆メッセージ

イエス・キリストは十字架にかかれる前の日、ゲッセマネの園で心をふりしぼり、真剣に祈
られました。その祈りは3回にわたり、長く苦しい闘いの祈りでした。そのためイエスさまの額
から汗が血のしずくのようにしたたり落ちました。

イエスさまは父なる神さまに2つのことをお願いされました。

一つ目は、「この杯をわたしから過ぎ去らせてください。」その意味は、「十字架にかからない
ようにしてください。」十字架にかかるために生まれてくださったイエスさまが、この願いをして
います。自分の気持ちや思いや願いを素直に祈ってもいいということです。



でも、イエスさまが一番重い恐ろしい十字架刑を負わ
なければならぬには理由があります。その理由は2つ
目の祈りに関係があります。その祈りは、「しかし、わた
しの願うようにではなく、父なる神さまのみこころのお
りになさってください」です。父なる神さまの思いは、
「一人でも多くの人を救うために、イエスさまが身代わり
になって、十字架にかかって死ぬことでした（ヨハネの
福音書3：16）。わたしたち人間は皆、生まれながら罪

を持っています。その人間を救うことは、罪のないイエスさまにしかできないことだからです。イ
エスさまは父なる神さまのお考えをごぞんじでしたから、「あなたのお考えのとおりなさって
ください」と祈られたのです。

神さまのみこころは、私たちに救い、祝福を与えるものです。もし、あなたが苦しむことがあつ
ても、それが、たくさんの人たちを助けることができるとしたら、どうしますか？ 大好きな友だ
ちのためなら、神さまのみこころに従いたいですね。

イエスさまは、私たち人間を救うために、あえて十字架の苦しみを受けてくださったのです。
なんと大きな愛でしょう。皆さんも、イエスさまに見習って、「神さまのみこころがなりますよう
に」と祈りましょう。

◆お祈り

「自分の願いより神さまのみこころを第一にするように。困っている人たちを自分より優先し
て助けてあげることができますように。」

(富山聖書教会牧師 北林行雄)

10月27日

テーマ：「^{にくたい}肉体は^{よわ}弱いのです」

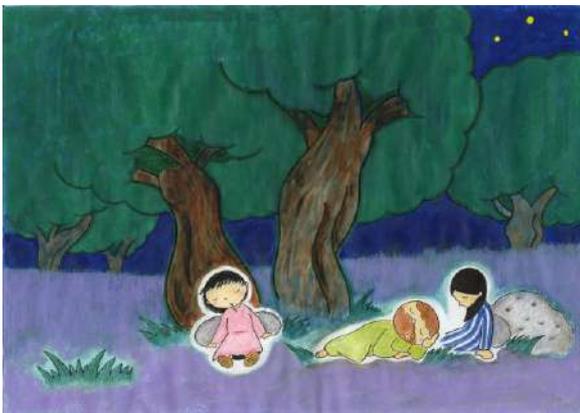
聖書箇所：マルコの福音書 ^{ふくいんしょ} 14章 ^{しょう} 38節 ^{せつ}

◆今日のみことば

誘惑に陥らないように、目をさまして、祈り続けなさい。心は燃えていても、肉体は弱いのです。
マルコの福音書 14章 38節

◆メッセージ

イエスさまは十字架にかかれる前の夜、ゲッセマネという園で、天のお父さまとお祈りをされながら過ごされました。その時、イエスさまは、少し離れたところにいたお弟子さんたちにも、「こ



こでお祈りをしていなさい」と言われたのです。イエスさまのおっしゃることなら何でもその通りにしたいと思っていたお弟子さんたちでしたが、とても疲れていたのでしょうか、いつのまにか眠ってしまいました。

私たちも、このお弟子さんたちのように、「やるぞ!」と思っ

て始めて始めたことが、途中で出来なくなったこと、疲れてしまい、続けられなくなったことはありませんか? もしかしたら、ケガや病気のために、大好きなスポーツや

夢をあきらめたこともあるかもしれません。そんな時、とてもがっかりしますね。

私のお父さんのY牧師は、イエスさまの事を伝えるお仕事を60年以上続けています。80歳になったある日、脳こうそくという病気になり、救急車で病院に運ばれました。お医者さんの緊急の治療のおかげで、いのちは助かりました。けれども後遺症のために、からだの右半分が、思い通りに動かせなくなりました。とてもつらい気持ちだったと思います。でも、毎日、イエスさまにお祈りをしながら、リハビリテーションをしました。少しずつ、ことばを話せるようになり、少しずつ左手で字を書いたり、食事をしたり、そして、ときどき、日曜日の礼拝でイエスさまのお話をする事ができるようになりました。からだは弱くても、毎日、明るく過ごしています。Y牧師が病気で倒れる前の礼拝メッセージは、「どんなにからだは弱くても、病気しても、心の中にいてくださるイエスさまは、いつも私たちを助けてくださる」というお話でした。



肉体が弱くても、祈り続けることができます。祈ることは、力ですね。

◆お祈り

「イエスさま、今日も私の心の中にいてくださることをありがとうございます。私が弱い時、苦しい時、悲しい時、どんな時にも、私をお守りくださることを感謝します。」

(高山祝福教会牧師 奥深山井作)

10月28日

テーマ：「三度知らないと言ったペテロ」

聖書箇所：ルカの福音書 22章54節～62節

◆今日のみことば

主が振り向いてペテロを見つめられた。ペテロは、「きょう、鶏が鳴くまでに、あなたは、三度わたしを知らないと言う」と言われた主のおことばを思い出した。

ルカの福音書 22章61節

◆メッセージ

あなたは、大きな失敗をして悲しくなったことはありますか？失敗すると、「もうだめだ～」と
思ってしまうことはありませんか。

イエスさまが、弟子たちと最後の食事をしていた時のことです。イエスさまは、弟子たちに向か
って、「あなたがたは、わたしを見捨てて逃げ出す。」と言われました。イエスさまはこれから起こ



ることをご存知でした。逃げてしまうことで、「失敗した。もう、
だめだ！」と落ち込んでしまわないように、声をかけてくださ
いました。「神さまのもとに戻ってくるように、あなたのために
祈りましたよ」。その時、ペテロは、「私は、イエスさまといっ
しょなら、牢屋に入れられることはもちろん、死ぬことも覚悟
ができています。」と言いました。ペテロは、本気で「そうした

い。自分ならできる！」と思っていたのです。でも、しかし、それは間違いでした。

ユダの裏切りによってイエスさまが捕らえられた時、ペテロは、イエスさまのあとについて行き、
集まった人たちの間に隠れながら様子をうかがっていました。すると突然、女中が、ペテロを
見て、「この人もイエスといっしょにいました」と言いました。ペテロは、ビックリ！「いい
え、私はあの人を知りません」と言ってごまかしました。しかし、しばらくすると、別の人にも「あ
なたはイエスの仲間だ」と言われ、結局、三回も「イエスなんか
知らない」と言ってしまったのです。

鶏の鳴き声を聞いたペテロは、最後の食事の時のことを思い出
して、激しく泣きましたが、「あなたのために祈りました」と言う
イエスさまのことばも思い出しました。



◆お祈り

「失敗することもある私を、愛して、祈って下さるイエス様に感謝します」

(神岡キリスト教会牧師 古川弘幸)

10月29日

テーマ：「イエスさまの^{さいばん}裁判」

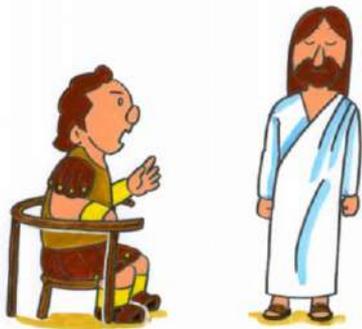
聖書箇所：ルカの福音書^{ふくいんしょ}23章^{しょう}13節^{せつ}～25節^{せつ}

◆今日のみことば

あなたがたは、この人^{ひと}を、民衆^{みんしゅう}を惑^{まど}わす者^{もの}として、私のところに連れて来たけれども、私があなたがたの前^{まえ}で取り調べ^{しら}べたところ、あなたがたが訴^{うった}えているような罪^{つみ}は別に何も^{なに}も見^みつかりません。
ルカの福音書^{ふくいんしょ}23章^{しょう}14節^{せつ}

◆メッセージ

イエスさまが捕^{つか}まえられた後^{のち}、イエスさまはすぐに裁判^{さいばん}にかけられました。イエスさまを悪^{わる}く思^{おも}っている人^{ひと}たちは、この裁判^{さいばん}でイエスさまを十字架^{じゅうじか}につけて死刑^{しけい}にしようとしていました。ところが、裁判^{さいばん}するピラトは、イエスさまに何^{なん}の悪^{わる}いところも見^みつけることができませんでした。ピラトはローマ皇帝^{こうてい}から遣^{つか}わされていた支配^{しはいしき}者^{もの}でした。イエスさまはまことの神^{かみ}さまですから、悪^{わる}いところは一つもないのは当たり前^{あたりまえ}のことです。しかし、イエスさまを悪^{わる}く思^{おも}っている人^{ひと}たちは、それでもイエスさまを十字架^{じゅうじか}につけようとしてピラトに死刑^{しけい}を求めつづ^{つづ}けました。そこでピラトもイエスさまを十字架^{じゅうじか}につけようとする人^{ひと}たちの声^{こえ}を無視^{むし}できなくなり、ついにイエスさまを死刑^{しけい}にすることにしました。



この裁判^{さいばん}は明^{あき}らかに不当^{ふとう}な裁判^{さいばん}でしたが、イエスさまはその裁判^{さいばん}に黙^{だま}って従^{したが}いました。イエスさまは不当^{ふとう}な裁判^{さいばん}に対抗^{たいこう}して、自分^{じぶん}も人^{ひと}のことを悪^{わる}く言^いったり、復讐^{ふくしゅう}しようとはしませんでした。イエスさまはすべてを父^{ちち}なる神^{かみ}さまにお任^{まか}せし、黙^{だま}って十字架^{じゅうじか}を受け取^うり取^とりてくださったのです。それは、イエスさまの十字架^{じゅうじか}の死^しには特別^{とくべつ}な意味^{いみ}があったからです。イエスさまは私^みたちの身代^{みが}わりが必要^{ひつよう}だったからです。私^{わたし}たちに、どう生^いきたらいいかの模範^{もはん}をのこしてくださいました。

私^{わたし}たちも人^{ひと}から悪口^{わるくち}を言^いわれたり、いじわるをされることがあります。そんな時^{とき}、言^いい返^{かえ}してやろう、やり返^{かえ}してやろうと思^{おも}うこともあります。でも、そんな時^{とき}には、イエスさまを思^{おも}い出^だしましょう。イエスさまに祈^{いの}りましょう。イエスさまが私^{わたし}たちのするべきこと^{おし}を教^{おし}えてくださいます。

※ もっとよく知りたい人のための聖書箇所 1ペテロ2：22～24
ローマ12：17、21



◆お祈り

「だれかに悪口^{わるくち}を言^いわれたり、いじわるされたときに、イエスさまを思^{おも}い出^だすことができますように。イエスさまが私^{つみ}の罪^{みが}の身代^{みが}わりになって、十字架^{じゅうじか}にかかってくださり本^{ほん}当^{とう}にありがとうございます。」

(藤枝中央キリスト教会牧師 園信吾)

10月30日

テーマ：「父よ彼らをお赦してください」

聖書箇所：ルカの福音書23章34節

◆今日のみことば

そのとき、イエスはこう言われた。「父よ。彼らをお赦してください。彼らは、何をしているのか自分でわからないのです。」
ルカの福音書23章34節

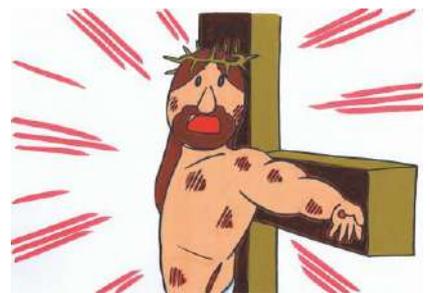
◆メッセージ

兄弟や友達とけんかをすることはありますか。やりかえしたり、やりかえされたりを繰り返すうちに、だんだんとひどくなって行って、どちらかが泣いてしまうことがありますね。わたしたちの心の中には、「やりかえしたい」「復讐したい」という思いがあります。また喧嘩のあとは仲直りをしようと思いますが、それもとても難しいですね。「赦さない」「赦したくない」という思いもあります。「自分は悪くない」「そっちから先に手を出してきた」というふうに感じてしまいます。



さて、イエスさまはどうだったのでしょうか。「自分は何もしていないのに、どうしてこんなにひどいことをするんだ」「神さま、この人たちに罰を与えてやってください」とイエスさまは言ったでしょうか。言いませんでした。代わりに言った言葉は、「父よ。彼らをお赦してください。」でした。

そのあとには、「彼らは、何をしているのか自分でわからないのです。」と続きます。自分がやっていることのひどさは自分ではわからないものです。でも後で後悔します。「ひどいことをしてしまった」「あんなことをするのではなかった」と。でも自分で反省する前に、神さまが赦してくださるように、とイエスさまは願ってくれました。嬉しいですね。私たちが「ごめんなさい」って言う前から、赦されることを願ってくれている優しいイエスさまに「ありがとうございます」と言いましょ。また、神さまや人にあやまるべきことがあったら「ごめんなさい」とすなおに言いましょ。



◆お祈り

「イエスさまは、自分にひどいことをした人たちが赦されるようにと願いました。わたしも自分にひどいことをする人たちが赦されることを願います。」

(古川教会牧師 高橋愛一郎)

10月31日

テーマ：「わたしと共にパラダイスにいる」

聖書箇所：ルカの福音書23章32節～43節

◆今日のみことば

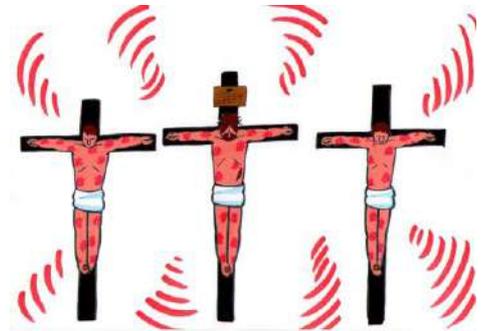
イエスは、彼に言われた。「まことに、あなたに告げます。あなたはきょう、わたしとともにパラダイスにいます。」
ルカの福音書23章43節

◆メッセージ

今日の箇所には「パラダイス」という言葉が出てきますが、これは「天国」または「楽園」という意味です。皆さんはどんな時に、「天国（楽園）にいるようだ」と感じますか。大好きなお菓子を好きなだけ食べられる時、ゲームを好きなだけすることが出来る時、いろいろ考えられるかもしれせん。でも、苦しい時や悲しい時にパラダイスにいると思えるのでしょうか。

イエスさまはユダヤ人たちに捕らえられ、間違った裁判によって十字架につけられることになりました。イエスさまはゴルゴタの丘という場所まで十字架を運ばされ、そこで十字架につけられました。その時、イエスさまの右と左にはそれぞれ罪を犯した人が十字架につけられていました。ゴルゴタの丘には三本の十字架が立てられたのです。

片方の人はイエスさまに言いました。「あなたはキリストではないか。自分と私たちを救え」しかし、もう一人の人は「おまえは神をも恐れないのか。おまえも同じ刑罰を受けているのではないか。われわれは、自分のしたことの報いを受けているのだからあたりまえだ。だがこの方は、悪いことは何もしなかったのだ。」そして「イエスさま。あなたの御国の位にお着きになるときは、私を思い出してください。」とお願いしました。するとイエスさまは「まことに、あなたに告げます。あなたはきょう、わたしとともにパラダイスにいます。」と言われたのです。



この人は十字架の上で自分のしたことを後悔していました。そしてイエスさまを救い主と信じ、自分の罪を悔い改めたのです。イエスさまのあわれみを求めました。イエスさまはこの人の悔い改めを受け止め、赦しを宣言されたのです。「たとえ処刑

されて死んでも、イエスさまの十字架のゆるしにより、イエスさまと一緒に天国にいるよ。」それが、今日、十字架にかかっている何もしない今日、です。よいことをしたら、ではありません。罪を認め、イエスさまのあわれみのゆるしを願った今日、です。

私たちも、自分の罪を告白し、イエスさまが私たちを愛し、共にいてくださることを信じるならば、喜び、平安をいただき、そこがパラダイスとなるのです。

◆お祈り

「どんな時でも、どんな場所でもイエスさまが共におられることを信じ、心の中が喜びや平安で満ちていますようにしてください。」(衣笠中央キリスト教会牧師 三浦峰人)